

## ■第 10 回精神障害者自立支援活動賞（リリー賞）受賞者 【支援者部門】

精神障害者が地域で暮らすために部屋を提供する不動産会社社長

### 阪井 ひとみ(さかい ひとみ)さん 54 歳【岡山県岡山市】

(NPO 法人おかやま入居支援センター 理事 / 阪井土地開発株式会社 代表取締役)

住まいが見つからないことが理由で、長期の入院生活をおくる精神障害者らのために、18 年前から入居支援を行っている。現在およそ 450 人の精神障害者を自ら管理するアパートで受け入れ、家族の支援が受けられない人でも自立して、地域で安心した暮らしができるよう、行政や弁護士、医師、看護師、社会福祉士らと連携しながらサポートしている。生活の基盤となる住居の支援は当事者にとって心強く、入居後のサポートも行っている点、またその活動が他の不動産関係者に対する精神障害者への啓発につながる点が高く評価された。

#### ●きっかけは統合失調症の入居者との出会い

18 年前、入居者の男性から錯乱状態で電話が入った。すぐに様子を見に行き、親族に連絡したが対応してもらえず、阪井さんが病院まで同行。男性は統合失調症と診断された。その病院から精神障害者の住居問題を相談された阪井さんは、物件確保のためまずは同業者に協力を求めた。

#### ●孤軍奮闘からチームワークへ

しかし精神障害者に対する偏見は想像以上に強く「初めは理解を得るのに苦労した」と語る阪井さん。2008 年、阪井さんの奮闘ぶりを知った弁護士の働きかけで NPO 法人おかやま入居支援センターが設立され、司法・医療・福祉との連携体制が確立。今では阪井さんの周辺で約 20 の不動産業者や大家さんが、精神障害者に物件を仲介・提供している。

#### ●地域で取り組む入居後の支援

「誰もが自分らしく生きられるように、地域でサポートする仕組みが必要だと思う」と阪井さん。医療や福祉の専門家も交えて入居後の支援を考える「ケース会議」、自宅周辺で集える「たまり場」の提供、年末年始の「炊き出し」をはじめ、阪井さんは行政や、スーパーの店長など地域の人々にまでネットワークを広げ、入居後の生活をサポートしている。

#### ●住居の確保が自立の一步に

「統合失調症で過去に 10 回以上入院したが、3 年前にアパートに入居してからは一度も入院していない」と語る女性。阪井さんの入居支援を受け、今は精神障害の偏見解消に取り組む NPO に参加している。阪井さんによれば、住居が確保できると、多くは規則正しい生活や働く意欲を取り戻し、自らの意思により就労継続支援事業所で働いたり、地域の清掃に参加したり、自分のできる仕事を始めるという。

#### ●新たな NPO の設立に向けて

今、阪井さんは、精神障害者とその親を地域でサポートするための新たな NPO の設立を目指している。「本人だけでなく、親御さん自身にもその人らしく生きてほしい」と語る。



阪井 ひとみ さん  
「社長はやめて！おばちゃんと呼んで！」と笑う



「たまり場」は週末に“カフェ”になる  
精神障害がある人もない人も、ともに語らう



体調の変化は、同じ病を持つ人が気づいて  
地域の人に伝える仕組みづくりをしている